

# 教育

## 私の学び

一戸建て住宅やマンション、事務所など民間の建設工事を手掛ける。仕事の3分の2は今まで培った人脈で入ってくる。人のつながりに助けられている。自らも1級建築士と中小企業診断士の資格を持ち、土地建物の企画段階から相談に応じる総合コンサルタント業を自負する。

1891年に創業した広島市中区の建設会社の4代目。ドア1枚を隔てて会社と家が隣り合う環境に育った。祖父や父の仕事を見るうち、自然



森信建設社長 森信 秀樹さん(65)

## 周囲の助言に耳傾ける

と家業を継ぐと意識した。技術者の家系だったが理系科目の成績は良くない。大学の進路を決める際、祖父から「商売を勉強してこい」と言われ、大学では竹林庄太郎教授の成績は良くない。大学の進路を勉強してこい」と言われ、大学では竹林庄太郎教授から中小企業論を学んだ。教授

もりのぶ・ひでき 広島市中区出身。1980年森信建設入社。91年から社長。広島青年会議所の92年度理事長。広島経済同友会で2013年から17年に代表幹事を務め、現在は特別幹事。

の勧めで、大阪市船場地区にある衣料品卸の大西衣料に入社。床に付いたチユーインガムを取る「丁稚」からスタートした。やがて販売の担当になると、取引先に売った値段が高すぎても安すぎても上司に怒られる。誰からも適正に利益を得る正直な商売の姿勢を学んだ。見積もり段階で駆け引きをしないやり方が今に生きている。

27歳で実家に戻ったが、売り上げが少なく、おまけに債務超過だった。仕事を広げるためにもまずは人脈が要ると思った。高校時代の同級生に頭を下げて広島青年会議所(JYC)に入った。同期のメンバーの税理士に相談して、3年で債務超過を解消した。JYCでは、先輩に名刺の出し方や、スーツのボタンの締め方を厳しく指導された。1997年に広島経済同友会に入会。やがて代表幹事を務めたが、最初の2年間、大学の先輩でもある当時の永野正雄筆頭代表幹事の背中を見て、トップの在り方を学んだ。ワンマンではなく、下から意見を積み上げて大きな組織をまとめる方法を教えられた。

2008年のリーマン・ショック後、建設の仕事が大きく減った。新たな収益の柱を育てようとヘルパーの資格を取り、介護事業に乗り出した。先輩事業者から厳しくたしなめられながら軌道に乗り、今は高齢者向けのグループホームを運営している。人生の節目ごとに得たアドバイスを耳を傾けてこまめに来た。そんな思いをかみしめ、社業に励んでいる。(聞き手は新山創)